

科目別特徴

科目名	特徴等
1(1)多様なサービスの理解	視覚教材の活用、介護保険におけるサービス 介護保険外のサービスの開設
1(2)介護職の仕事内容 働く現場の理解	在宅・施設の多様な現場における仕事内容 視覚教材の活用、現場職員の体験談
2(1)人権と尊厳を支える 介護	具体的な事例を提示し、個人としての尊重、アドボカシー、エンパワメント の視点を理解する。虐待についても同様にして考える。
2(2)自立に向けた介護	討議の手法を用いて、ノーマライゼーション、QOL、残存能力の活用について 理解を深める。
3(1)介護職の役割、 専門性と多職種との連携	可能な限り、具体例を示し、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。 職場体験者の事例により、介護支援専門員、看護師等との連携を理解する。
3(2)介護職の職業倫理	現場管理者等の体験に基づく事例紹介を交え、専門職としての倫理の意義 社会的責任の理解を促す。
3(3)介護における安全の 確保とリスクマネジメント	現場体験者の事例を基に事例検討を行い、安全確保について理解する。 ヒヤリハットの実例事例を参考にする。
3(4)介護職の安全	現場経験者の体験に基づくストレスマネジメント、腰痛対策、感染症予防 対策について理解を促す。
4(1)介護保険制度	講義主体、介護保険制度について徹底的に説明、創設の理念、要介護度認定、 介護予防、介護給付、財源等制度の根幹、制度の役割の理解を促す。
4(2)障害者総合支援 制度及びその他制度	講義主体、障害者権利条約、障害者基本法、障害者自立支援法を通して 障害者総合支援制度の理解を促す。その他生活保護法にも及ぶ。
4(3)医療との連携と リハビリテーション	現職ケアマネージャーによる実地経験により、ケアカンファレンスの紹介等を 通じて、医療との連携、リハビリテーションとの関係を学ぶ。
5(1)介護における コミュニケーション	現場体験者の事例を通して、利用者の心理や利用者を傷つけるコミュニケーション への気付きを引き出し、討議の手法を用いて、その理由を考える。
5(2)介護における チームのコミュニケーション	介護のポイントはチームケアであり、現場体験者の事例を通じて、情報の共有化 報告・連絡・相談を的確に行うこと、ケアカンファレンスの持ち方を習得する。
6(1)老化におけるこころ とからだの変化と日常	介護職員は高齢者の日常に直接かかわるので、身体的変化や多い疾病に ついて受講者の考えを述べ、それを通して、支援を考えてゆく。
6(2)高齢者と健康	現場体験者の提示する事例に基づき、事例検討も加えて、高齢者の健康、 支援のあり方を理解する。
7(1)認知症を取り巻く 状況	認知症について学ぶことは介護職員にとって極めて重要なことを認識して もらうような組み立てを行い理解を促す。
7(2)医学的側面から 見た認知症の基礎と 健康管理	認知症の発症原因となる疾患、その態様等、特定疾病の対象となる若年性 認知症と老年期認知症との差異、健康管理等について、通信課題を用いて 理解を促す。
7(3)認知症に伴う こころとからだの変化と 日常生活	認知症の症状は、中核症状と周辺症状に分けられることを先ず説明し、それ ぞれの視点を理解する。虐待についても同様にして考える。症状に応じた 支援方法を学び、現場の実例を定時して、共感の理解を促す。
7(4)家族への支援	家族の介護負担について、気付きを引き出し、現場からの事例を用いて 家族のエンパワメントについて事例検討を通じて理解する。
8(1)障害の基礎的理解	講義主体、障害の概念、ICFの理念、障害者福祉の基本的考え方を理解する。 ノーマライゼーションにとくに重点をおく。
8(2)障害の医学的側面 生活障害、心理・行動の 特徴、かかわり支援等 の基礎的知識	視覚・聴覚・言語・身体等各種障害の原因、表れ方、特徴、 ・行動の態様、支援にける留意点等を通信課題を通じて理解する。
8(3)家族の心理、 かかわり支援の理解	家族の心理、ストレス、ニーズ等について、説明し、家族への支援 について、現場の実例を用いて気付きを引き出す。
9(1)介護の基本的 考え方	介護における専門知識の重要性を現場経験者の事例を通じて認識して もらう。「求められる介護福祉士像」を基に受講者に各理想像を描いてもらう。
9(2)介護に関するこころ のしくみの基礎的理解	記憶のメカニズム、感情の反応について受講者に説明してもらい、身近な 事例から、加齢による感情の動き等の理解を促す。
9(3)介護に関するからだ のしくみの基礎的理解	加齢による身体的機能の低下等について討議方式により気付きをうながし、 支援方法の理解を促す。

9(4)生活と家事	実技内容 備品 指導体制	洗濯順序、献立作成・調理の考え方、掃除・ごみ処理、買い物支援 栄養バランスガイド、調理器具、掃除機、メモ(のとり方) 豊富な実務経験を有する講師陣(別紙 講師一覧シラバス等参照)
9(5)快適な居住環境 整備と介護	実技内容 備品 指導体制	バリアフリー例、手すり等による安全保持、転倒防止例 すべり止めマット、簡易手すり等 豊富な実務経験を有する講師陣(別紙 講師一覧シラバス等参照)
9(6)整容に関連した こととからだのしくみと 自立に向けた介護	実技内容 備品 指導体制	身支度の介護、衣服着脱、洗面・整髪、爪切り、口腔ケア 衣服、タオル、整髪具、爪切り、歯ブラシ、歯間ブラシ等 豊富な実務経験を有する講師陣(別紙 講師一覧シラバス等参照)
9(7)移動・移乗に関連した こととからだのしくみと 自立に向けた介護	実技内容 備品 指導体制	移動介護、ボディメカニクスの利用法、ベッド・車いすの移乗 ベッド、車いす、杖、歩行器 豊富な実務経験を有する講師陣(別紙 講師一覧シラバス等参照)
9(8)食事に関連した こととからだのしくみと 自立に向けた介護	実技内容 備品 指導体制	食事環境整備、自助具の利用、食事姿勢、咀嚼・嚥下への配慮 食食用自助具、食器、食品成分表 豊富な実務経験を有する講師陣(別紙 講師一覧シラバス等参照)
9(9)入浴、生活保持に関連した こととからだのしくみと 自立に向けた介護	実技内容 備品 指導体制	入浴介助、声かけ、洗い、浴槽の出入り、足浴、洗髪、清拭 入浴用いす、浴槽、浴槽用手すり、浴槽内いす、すのこ、クレーパッド 豊富な実務経験を有する講師陣(別紙 講師一覧シラバス等参照)
9(10)排泄に関連した こととからだのしくみと 自立に向けた介護	実技内容 備品 指導体制	ポータブルトイレの使用、尿器・便器の使用、 ポータブルトイレ、腰掛便座、尿器、便器、おむつ 豊富な実務経験を有する講師陣(別紙 講師一覧シラバス等参照)
9(11)睡眠に関した こととからだのしくみと 自立に向けた介護	実技内容 備品 指導体制	不眠対処、精神的安定(心理的支援)、睡眠に関する記録、 ベッド、枕、クッション、タオル、ベッド柵、ベッドてすり 豊富な実務経験を有する講師陣(別紙 講師一覧シラバス等参照)
9(12)死にゆく人に関した こととからだのしくみと 終末期介護	実技内容 備品 指導体制	看取り、自己決定の尊重 豊富な実務経験を有する講師陣(別紙 講師一覧シラバス等参照)
9(13)介護過程の 基礎的理解	実技内容 備品 指導体制	介護プロセスの基本的考え方、展開していく上での視点、根拠・理由に基づく実践 について、説明、典型的な利用者例を設定して、介護プロセスの展開を受講者に 考えてもらい、発表してもらう。 豊富な実務経験を有する講師陣(別紙 講師一覧シラバス等参照)
9(14)総合生活支援 技術演習	実技内容 備品 指導体制	場面設定による生活支援技術演習 食事介助、ベッド・車いすの移乗、ベッド上での足浴、歩行介助 認知症に対する支援、 ベッド、車いす、ポータブルトイレ、杖、尿器、便器、 豊富な実務経験を有する講師陣(別紙 講師一覧シラバス等参照)
10(1)振り返り		これまでの学習について網羅的に復習を行う。実技部分についても受講生相互 で確認する。受講生の疑問に可能な限り応える。
10(2)就業への備えと 研修修了後における 継続的な研修		現場の体験者の体験談を中心に就業の備えを理解する。 今後のキャリアパスについて、介護福祉士制度の理解を通して 事故研鑽の必要性への気づきを引き出す。